

校訓	真善美	平成29年度学校だより	発行日	平成30年1月17日
教育目標	自主、自立、感謝の精神を抱き、 未来を拓く生徒の育成 —豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる—	「荒中だより」 第32号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 難波 重之

1. 17に考える

1月も折り返しを過ぎ、一年で最も寒さが厳しい時季になりました。インフルエンザが流行っていますので、手洗いやうがい、規則正しい生活など体調管理には十分に気をつけてください。



今日は朝から雨が降り続いています。本来はグラウンドで防災訓練を行う予定でしたが、仕方なく体育館へ移動し追悼集会を行いました。昨日から阪神間各地で、追悼集会が開催されています。地震から23年たちますが震災を風化させず、次の世代へ伝えていくことが大事です。

今から23年前の今日、兵庫県南部を激しい揺れが襲いました。この地震で、阪神間では震度7が観測され多くのビルや家が倒壊しました。地震で亡くなられた6,434名の方の約70%は、倒壊した建物等の下敷きになって窒息、圧死された方でした。地震は5時46分に発生したので、多くの方はまだ寝ていました。私自身も突然の激しい揺れに目覚め、背中から何度も突き上げられるような感覚でした。

7年前の東日本大震災の時は、14時46分頃に揺れました。授業中だった東北各地の学校は、揺れがおさまった後、児童生徒を下校させるのか、津波に備え集団避難するのか、その避難場所はどこにするのかなどの困難な選択を迫られる状況でした。岩手県釜石市では、「津波てんでんこ」といって、津波の時は、家族さえかまわず一人でも高台に走って逃げて、自分の命を守ることが徹底されていました。その教えを守り、一人で家にいた低学年の児童も自分の判断で避難しました。

一昨年の熊本地震は、21時26分に揺れました。皆さんは、この時間なら何をしていますでしょう。家で寛いでいる人が多いと思いますが、中には人が集まるような映画館やショッピングモールにいる場合もあります。

地震などの災害はいつ起こるかわかりません。大事なことは、自分の命を守ること、そして今起こったらどのように行動するか常に考えておくことです。また、家族がバラバラになった時、どこに集まるかも決めておきましょう。

兵庫県南部地震犠牲者追悼の集いに参加しました

1月16日（火）昆陽池公園南広場にて行われた、「第23回兵庫県南部地震犠牲者追悼のつどい」に生徒会役員が参加してきました。全校生でろうそくに追悼メッセージを書き、それを持っていきました。ご協力ありがとうございました。

今年の開催テーマは「^{うれ}憂い～心堅石穿（しんけんせきせん）意思が堅ければどんな困難も克服できる～」です。あの日、「生きる」を託されたこの命。見失うことなく、憂いとどまることなく、生かされた私たちが伝え続けるという思いがこめられています。震災から23年、中学生をはじめ、震災を知らない世代が多くなり、このような活動の大切さを改めて強く感じました。

主催者の方は、今日の日が「誰かのことを思いやる」心の日であってほしいと考えておられます。そんな一日になればいいですね。



わくわくオーケストラ教室へ行ってきました

1月10日（水）、1年生は『わくわくオーケストラ教室』で、西宮北口にある県立芸術文化センターへ行きました。この事業は、2006年から県内の中学1年生を対象に毎年行われ、豊かな^{じょうそう}情操や感性を身につけるきっかけになるよう、生の^{なま}オーケストラの演奏を体験するものです。

『ストラヴィンスキー 「火の鳥」』や『ふるさと』（嵐）など迫力ある壮大で繊細な演奏を体感しました。夕方、今津線に乗り合わせた女性から「生徒の皆さんの素晴らしい公共マナーが気持ち良かったです」と嬉しいお電話をいただきました。



きらめけ!!荒中生!!

☆野球部 第12回西淀川交流大会（12/9・10・17・23 新淀川野球場）

準優勝（大阪府内19チーム、阪神間5チーム 計24チーム参加）

